



ハンガリー政府観光局 ニュース 2013年1月31日 No 238

- 第9回 ハンガリー旅の思い出作品受賞者発表
- お勧めの城、トップ10
- コラム:連載第2回「チャッカマン」

● 第9回 ハンガリー旅の思い出作品受賞者発表

第9回「ハンガリー旅の思い出」コンテストへは30名の方から32の作品が寄せられました。この度旅行作家の沖島博美さんの作品審査が終了し、次の5名の受賞者の方が決まりました。

- A 賞:ヘレンド「イヤーズプレート2013」: 三沢 洋さん「ブダペストを訪ねて」
- B 賞:トカイ貴腐ワイン 500ml: 井上 潔さん「ハンガリー大平原プスタでの休日」
- C 賞:ハンガリー ワイン 750ml: 副島 英恵さん「白昼夢のヴィッラーニ」
- D 賞:フォアグラペースト4個入り: 酒井 英理子さん「ブダペスト1泊旅行」
- E 賞:ハンガリー産アカシア蜂蜜: 堀 楠平さん「ハンガリー南部ぶらり旅」

ハンガリー旅の思い出コンクール 2012年

審査員:旅行作家 沖島博美

今回は実に32もの作品が寄せられました。ハンガリー政府観光局をはじめ関係者たちにとって嬉しい限りです。とりわけ男性の方の作品が半分以上だったことは驚きであり、また喜びでもありました。ご応募くださった皆様、本当にありがとうございました。

さて、今回は優れた作品が多く寄せられました。毎年そのように書いている気がしますが、実際に年々作品の質が高くなっていくように感じています。何度も読み返した結果、下記の5人の方々を選ばせて頂きました。この中で順位を決めるのは難しく、1位から5位までは甲乙つけがたいものでした。

ここに取り上げることができなかった作品の中には部分的に大変興味深いもの、部分的に非常に優れているものなどが多数ありました。それらすべてを紹介できないのが残念です。投稿して下さったのは、前々からハンガリーに行きたいと思ってやっと念願叶った方、初めて訪れて以来ハンガリーに魅せられて何度も足を運んでいる方、今回初めて行ってすっかり気に入ってしまった方など、ハンガリーが大好きな方々ばかりです。皆さまからはハンガリーに対する熱い思いが伝わってきました。

投稿して下さった方々に心より御礼申し上げます。皆さま是非、もう一度ハンガリーを訪れてください。

A 賞 『パンの味の思い出は40年の昔』 三沢 洋

小気味良いテンポで書かれています。40年前の懐かしい思い出から今回の体験まで、引き込まれてあっという間に読み終えました。社会主義時代のブダペストで、まだ自分たちの生活も大変な中、一人の東洋人に対する町の人々の態度。その僅かな気遣いがハンガリー人の暖かさを伝えてくれました。今回の旅で王宮の丘を歩いているとき、「天の庭の散歩みたい。歩く人みんな幸せそう。」とありましたが、きっと三沢さんも幸せだったのでしょう。帰国直前に中央市場へパンを買いに走ったときの緊張感。曇りの中を走って戻る終わり方もいいですね。

B 賞『ハンガリー大平原プスタでの休日 ～ ホルトバージュの馬と人々』井上 潔

比較的短い文章でしたが興味深い内容でした。アストリッド・リンドグレーンの小説の舞台をスウェーデンではなくハンガリーに求めるというユニークな発想、ホルトバージュでの強引な乗馬体験など、普通の旅人が書いたものとは異なる個性に溢れた作品です。最後に「次はエゲルの美女の谷でワインを味わおう、と駅に向かった。」とありましたが、この後に訪れたエゲルで、井上さんは一体どんな体験をなさったのでしょうか。

C 賞『白昼夢のヴィッラーニ』副島英恵

ご夫婦で訪れたヴィッラーニのワイン村。お二人とも相当なワイン好きのようですね。また外国の旅にも慣れておられる御様子。ご夫婦でこんな風に自由気ままに外国の旅ができるなんて理想的です。仲睦まじい様子も手に取るように伝わってくる微笑ましい作品です。とりわけ日が暮れていくヴィッラーニ村の風景描写が素晴らしく、とても印象的でした。

D 賞『ブダペスト1泊旅行』酒井恵理子

ウィーンからの1泊旅行という短い旅。そんな限られた時間の中で多くの体験をされ、地元の人々とたくさん触れ合うことができました。ハンガリー人の何気ない気遣いや暖かさをよく観察しておられます。中学生たちの名前を漢字で書いてあげたのは良い思いつきでした。その時の光景が目に浮かびます。公園のあの子たちは今でも絶対、ジャパンのエリコのことを覚えていますよ。

E 賞『ハンガリー南部ぶらり旅』堀 楠平

ページに4日間もご夫婦で滞在、というプラン自体がとても独創的です。ハルカーニの温泉まで行ったことのある日本人は滅多にいないことでしょう。旅のまとめとして“ハンガリーらしさ”とは「派手に目立ってあるものではなく、さりげなく人々の生活の中に溶け込んでいるもの」、「大昔から変わらず残っているものというよりは、長い歴史の中で削られて磨かれて残った結晶のようなもの」、と書かれてありますが、鋭い観察力ですね。

近日中に全作品をホームページ上で公開いたします。

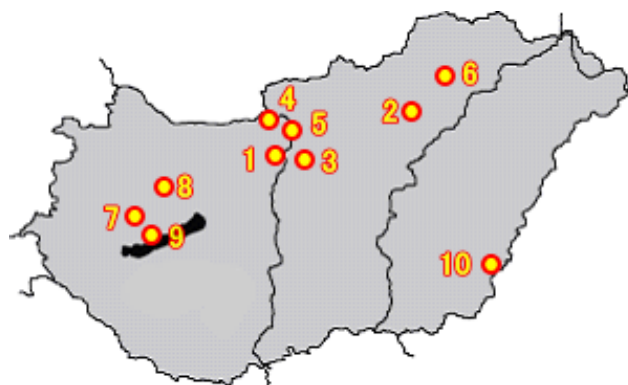
●お勧めの城、トップ10

ハンガリー国内には100を超える城と荒城がありますが、観光局お勧めの10の城をご紹介します。

ハンガリーは様々な民族が混在するカルパチア盆地に囲まれ、覇権意識を持つ中世国家にも対抗するため多くの城が築城されましたが、その中には戦闘により無残にも破壊された物がある一方、現在も中世の生き証人として地域のランドマークとなっているものも多くあります。近年、改修や保存工事が進められ、コンサートや城の日のイベントなどの開催を通じ旅行者を待ち受けています。

1. ブダ城と要塞

ブダ城は国内最大規模の城で豊富なアトラクションや眺望の場として観光客を引き付けています。一方、ブダ城に隣接するゲッレルトの丘は、要塞を擁し、市内を一望できる場所として人気があります。



2. エゲル城

牡牛の血と呼ばれる赤ワインの街と知られるエゲルは、中世の面影を色濃く残しており、城内の博物館は必見です。また周辺で醸造されるワインも格別で、左党にはうってつけの街です。

3. ヴァイダフニャド城 (Vajdahunyad)

ブダペストの背後に位置する市公園 (Városliget) に建つこの城は、ハンガリー定住一千年を記念し様々な建築様式を織り交ぜて建築されました。

4. エステルゴム城と大聖堂

ドナウベンドの要衝、エステルゴムに建つ大聖堂はハンガリー最大で、世界でも 18 番目の大きさを持つローマカトリックの教会であり、聖堂内には一枚の油絵としては世界最大の「聖母被昇天」が掲げられています。聖堂に隣接する城博物館も要チェック。

5. ヴィシェグラード要塞 (Visegrád)

この城はブダペストっ子にとっても人気の場所で、歩いてでも車ででも登る価値があり、要塞からの眺めはハンガリー最高のパノラマです。

6. ディオーシュジェール城 (Diósgyőr)

この城は、北東ハンガリーのミシュコルツ郊外に位置し、4 つの塔を持つその姿は旅人を引き付けます。城内ではコンサートや劇などの公演が開催されます。

7. シュメグ城 (Sümege)

西ハンガリーのショムローに位置するこの城は、円錐形の山の頂上に建てられており、遠くからでも見間違ふことはありません。また、城からの眺めは 360 度遮るものはありません。

8. ショムローの荒城 (Somló)

シュメグの北に位置し、ややアクセス性に難があるものの、ショムローワイン生産地域を見渡す城からの眺めは最高です。

9. シグリゲト荒城 (Szigliget)

バラトン湖のパノラマを一望できるこの城は、雷の直撃を受け破壊され、1702 年国王の名により、荒城となりました。遠方からも見える城は良いランドマークとなっています。

10. ジュラ城(Gyula)

パーリンカの生産地であるジュラは南東ハンガリーに位置し年々その名前が知れ渡ってきています。城内には王の居室や監獄、博物館などがあり、庭園では野外イベントが数多く開催されます。

●コラム:連載第2回「チャッカマン」

ハンガリーへの留学経験のあるペンネーム「カコ」さんによるブダペストでの生活体験をコラムにまとめていただき連載することにいたしました。

第2回「チャッカマン」

ブダペストにはスーパーやショッピングセンターもあるが、個人商店がまだまだ健在である。まず、靴屋やおもちゃ屋がやたらと目に付く。古本屋や布団屋も多いし、ちょっとびっくりするようなきわどい下着屋も場所を選ばずにかなりある。チャッカマンが置いてある店なら、日用品店や台所用品店だ。

しかし私はまだブダペストでどこに何があるか、そもそもチャッカマンが何という名前で呼ばれているのか、まだわからない状態だった。知人から名前(ガーズトゥーズヘイジュイトー gáztűzhely gyűjtő)を教えてもらって日用品店を探すものの、必要なときに限って見つからない。あつたと思ったら園芸用品店だったりする。そうこうして2週間も経ってから、とうとう語学学校までの帰り道で台所用品の店を見つけることができた。

店に入るときは客も挨拶をするのが普通で、店員の方も、何を探しているのか聞いてくれる。店内は食器や包丁だけでなく、電気ポットなども扱っていてごちゃごちゃしていたので、ジュイトーをくれと早速尋ねてみた。

店員のおばさんはラックから二つチャッカマンを見せてくれた。ひとつは日本でもよくお目にかかる、持ち手がピンク色の普通のチャッカマンだった。もうひとつは、いびつな極太青色ペンのような形をしていた。ピンクの方は火のライターで、こっちはシクラによるライターだ、と説明された。シクラ……？

シクラといえば日本語で「岩」だと覚えていたので少し戸惑った。「光や、雷みたいなものよ」と言われてますます混乱した。岩なのになんで雷……？迷ったあとで、極太ペンの中で小人が火打石を打って火花をとばす構造を想像し、勝手に納得した。どちらでもよかったが、家ではコンロのほか暖房と湯沸かし器にもライターが必要だったので、二つとも買った。留学中はどちらも大活躍してくれたので、生活が少し快適になった。

あとになってから、シクラ(szikra)は火花とかスパークという意味だということを知った。ちなみに岩もシクラ(szikla)である。違う単語だったのだ。日本人にありがちなエルとアールの聞き間違いだった。



※例のガスコンロと、シクラを使うチャッカマンの先端。ボタンを押すと小さい穴の中に稲妻が走る。

ハンガリー政府観光局

facebook: <http://www.facebook.com/HungaryTravelClubJP>

Twitter: https://twitter.com/HNTO_JP

ヨーロッパアンカルテット ブログと facebook

ブログサイト: <http://www.europeanquartetblog.com/>

facebook: <http://www.facebook.com/EuropeanQuartet>